

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会
理事、エコ・小委員長
株式会社山建築設計 代表取締役
佐々山 茂

環境面に配慮した持続可能な観光が求められる時代です。2021年のCOP26では観光分野における気候変動対策を加速し、今後10年間で観光部門での二酸化炭素(CO₂)排出量を半減させ、2050年までに「ネット・ゼロエミッション」の達成を掲げています。脱炭素経営によってイ：脱炭素経営に取り組む施設としての優位性の構築。ロ：水光熱費の低減。ハ：脱炭素に対応することで社員のモチベーション向上や人材獲得力の強化。ニ：優遇税制・低利融資などのメリットが期待され、半面取り組まないことで、カーボンフットプリントを意識するインバウンド客に敬遠され、カーボンプライシングへの対応の遅れなど

のデメリットが生じます。エコ・小委員会では次の5つの取り組みを進めています。

- ① 宿泊施設のCO₂排出量の原単位を利用客1人当たりとすること。一般的には床面積1平米当たりのCO₂排出量で算出しますが、稼働率の変動が大きい宿泊施設では利用客1人当たりで算出することが経営的な判断にも生かせ、合理的であると考えています。
- ② CO₂排出量の可視化ツールとしては企業会計データから算出するクラウド型のシステムもありますが、より具体的な電気・ガス・油のパルスメー

宿泊施設のCO₂見える化・・・CO₂排出量可視化ツール

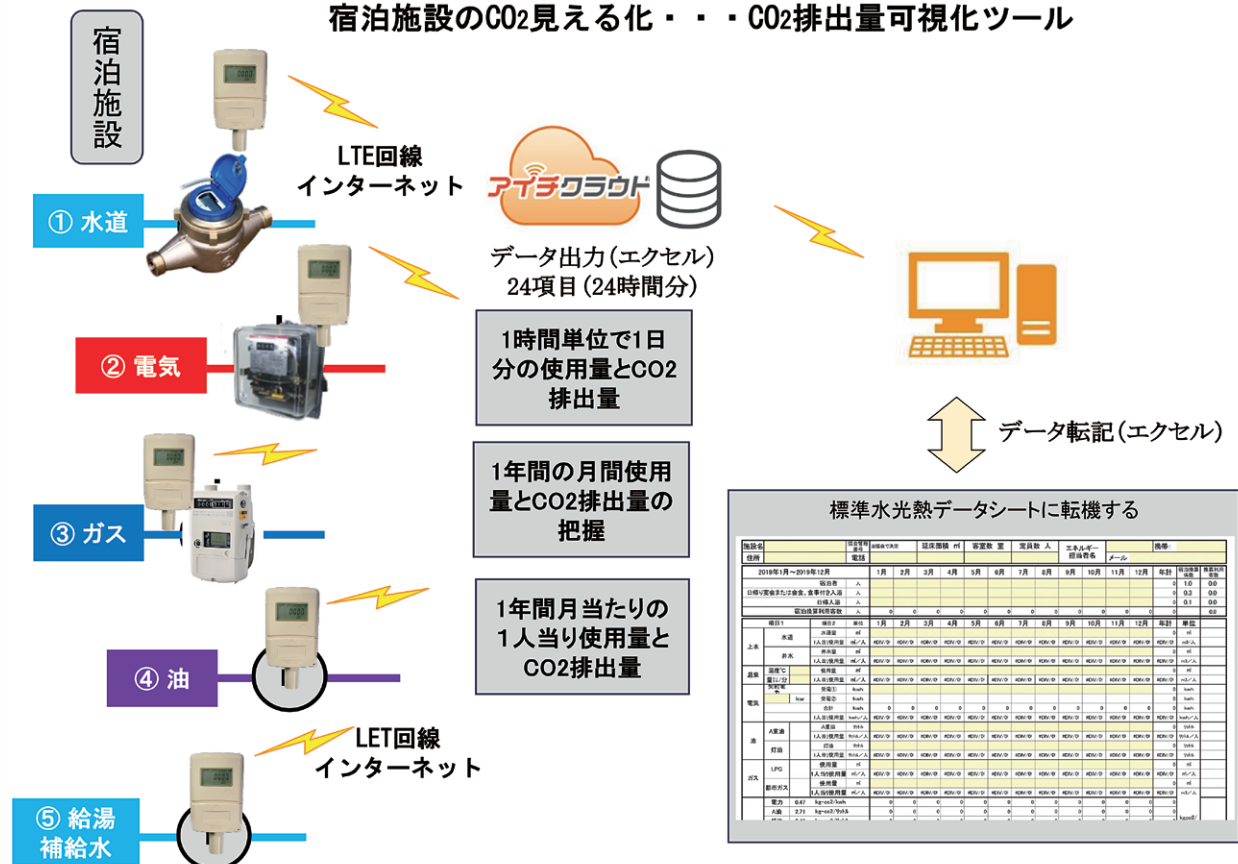


表1 CO₂排出量センサー：電気・ガス・油のパルスメーターからLET回線（携帯電話）でクラウドにデータを送り、インターネットで各施設がデータを受ける

社会へのホスピタリティ 宿泊施設のカーボンニュートラルへの道

公益社団法人国際観光施設協会 理事、エコ・小委員長
(株)佐々山建築設計 代表取締役

佐々山 茂

ターから発信されたデータを受けて利用人員から毎日の1人当たりCO₂排出量を可視化するシステムの開発に取り組んでいます。このシステムはエネルギー使用量の評価を行ない、データから問題点を見つけ出し、改善につなげることが可能です。

③ 宿泊施設のCO₂排出量が多い3つの原因。イ：設備専任が不在でエネルギー使用量を把握していないために無駄使いが多い。ロ：リゾートの宿泊施設はシーズン変動が大きく、また、週末型で1日でも朝と夕方にエネルギー使用量のピークがあり、

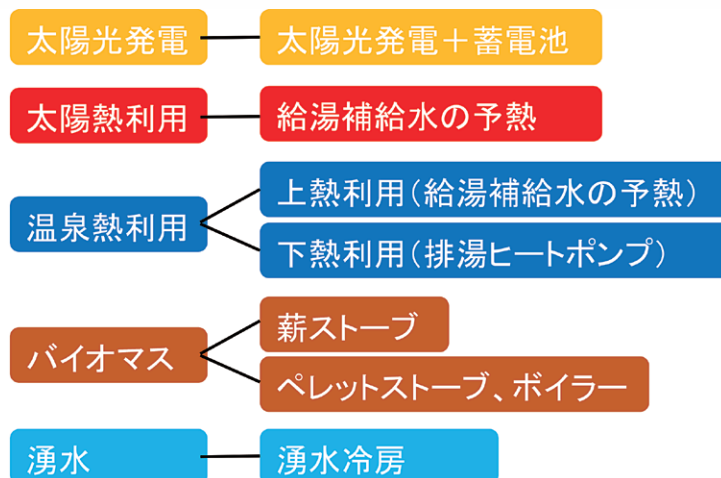
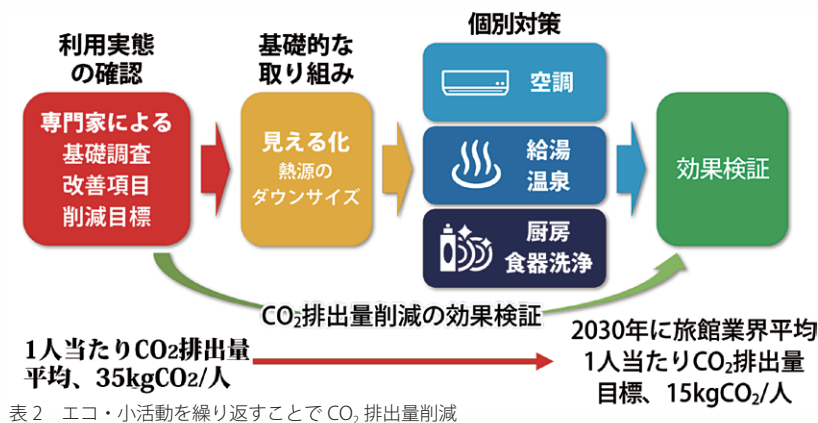
生産施設と違い負荷変動が大きいですが、それに追従しないで定常運転している機器が多いため無駄が出ています。ハ：近年旅行の個人化が進み高度成長期に造られた旅館などは10帖5名で考えているので、2名中心の現状では過剰設備になり、その分余分なエネルギーを使っています。これらの課題解消に取り組んでいます。

④ 質を下げないでエネルギー使用量を削減する方法「エコ・小」の普及。イ：専任でなくとも担当者を付けエネルギーの見える化を行ない、利用実

態を把握する。ロ：稼働の変動に対応するために循環ポンプのインバータ制御、個別空調などの対策をとると共に建物の断熱化をはかる。ハ：現状施設を個人向けに浴室などのダウンサイズや食のカイゼンを進めることでエネルギー使用量を減らし、生産性を向上させながらお客さまの満足度につなげます。

⑤ 地域でのエネルギーミックス：建物の断熱性を上げると共に小さなエネルギーで運用する「エコ・小」で合理化したうえで多様性のある地域エネルギーを使うのが有効と考えています。温泉が豊富にある施設では常時30℃の温泉排水を垂れ流しているののでこの熱をヒートポンプで回収すれば給湯に使えます。50℃以上の温泉があれば上熱で給湯補給水を予熱し重油やガスを減らせます。林業が盛んな地域であれば薪や木質ペレットが重油やガスの代わりに使えてCO₂排出量を抑えられるのです。私の関係先でも9℃の湧水を利用した冷房や、薪ボイラー、使用後の天ぷら油やエンジンオイルを暖房熱源として利用している施設があります。地域にある多様性に富んだ再生可能エネルギーを利用する仕組みを構築すれば毎年の利益につながります。エネルギー費用を平均的に30%削減することを目指したいと思っています。

地域の多様性に注目することで自然環境に恵まれた日本らしい宿泊施設に進化し、子や孫の世代へと持続可能な観光の基盤をつくるのが私達エコ・小委員会の願いです。



連載

SERIES